

人権コラム(41回) 話してみましょう!「やさしい日本語」

やさしい日本語って何?

人権コラム 41 回を担当する人権政策課です。

私たちが普段使っている日本語は、漢字、かな、カタカナ、ローマ字などをつかって豊かな表現ができ、言葉に思いを載せることができる言霊(ことだま)や短歌・俳句など長い歴史を通して培われてきた魅力がいっぱいの言語だと思います。

しかし、世界的に見て日本語は難しい言語とされています。漢字の読み方が色々あったり、あいまいな表現があって理解しにくく、相手や状況に応じて使い分ける敬語は日本人にとっても習得が難しいです。

ところで、みなさんは、「やさしい日本語」と言う言葉を聞いたことがありますか?

「やさしい日本語」とは、難しい言葉を簡単な言葉に言い換えたり、漢字やカタカナにふりがなを振ったりすることで、わかりやすくした日本語の事をいいます。

そもそも「やさしい日本語」が注目を集めたのは、1995 年の「阪神・淡路大震災」です。けがをしたり亡くなった人の割合を分析すると、外国人の方が日本人より2~3倍高かったことから、できるだけ早く、避難情報等を伝えるための方法として考え出されたそうです。

現在日本では外国人の人数は約 396 万人を記録し、橿原市には 39 か国 1360 人余りの方が暮らしています。母語で情報を伝えることが理想的ですが、現実的には難しいと思います。

外国人の方にとって「日常生活に困らない言語」つまり簡単な内容であれば、英語よりも「やさしい日本語」の方が伝わりやすく、ニーズも高いということが分かってきています。そして日本語を学び始めた人にとっても簡単な文構造から学び始めることができ、読みやすい文章です。

複雑な文構造や難しい外来語などは使用しない「易しい(簡単な)」・「優しい(相手の事を思いやる)」日本語として、高齢者、障がい者や子どもたちにもわかりやすく伝わると思います。

やさしい日本語でコミュニケーションを深めましょう

あるアンケートでは、外国人の7割以上が日本人と交流したいと思っているのに、日本人は1割程度だったという結果が出ていました。背景にあるのは「ことばが違う外国の方と話すのは苦手だ」と思っているのも一因かもしれません。

みなさんも「英語ができないから無理!」「きっと伝わらないからだめだ!」と思わずに、「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションのきっかけにできればと思います。

やさしい日本語の具体的例

- ① 話すときは、ゆっくり・はっきりと!
- ② 書くときは漢字・カタカナにふりがなをつける
- ③ 写真やイラスト・図などを活用する
- ④ 説明は短く簡潔に (例)「~です」「~してください」
- ⑤ 外来語に気をつける (例 ツール→道具 プレゼンテーション→発表)
- ⑥ 曖昧な表現はさける (例) だいたい2時ごろ来てください→2時に来てください
- ⑦ 二重否定しない (例) 会議に行かないということはありませぬ→会議に行きます
- ⑧ 意味の難しい言葉は言い換える (例) 今朝→今日の朝 記載する→書く

参照 「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」文化庁

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html